

【☞ 方向ガイド編 ✨】01

古代日本人は、
「見えるもの ⇄ 見えないもの」
を解明していた。

✨ 『運』の仕組みが分かる
基礎講座 ✨

これからお話する
古代日本人の『叡智』は、



「見えるもの」は勿論、
「見えないもの」も扱っていきます。

「見える」カタチとして解明するのが、
いわゆる「科学」と呼ばれるもの。



物理学 / 量子力学等が代表的ですね。

「見えないもの」とは、
言い換えると「不可思議な現象」です。



古代日本人は、
「不可思議な現象」にも目を向け、
日常生活の中で活用してきました。

「見えないもの＝怪しい」と思われがちですが、
ここでお伝えする「不可思議な現象」は、
とても現実的で、誰もが活用できます。

決して「非現実的な空想」
ではありませんので、ご安心下さい。

ここで一つ、事例をご紹介します。

例えば、「日本語」の
日常会話で使われる、



「空気を入れ替える」



「空気がピリっとする」



「空気が張りつめる」



「空気を読む」

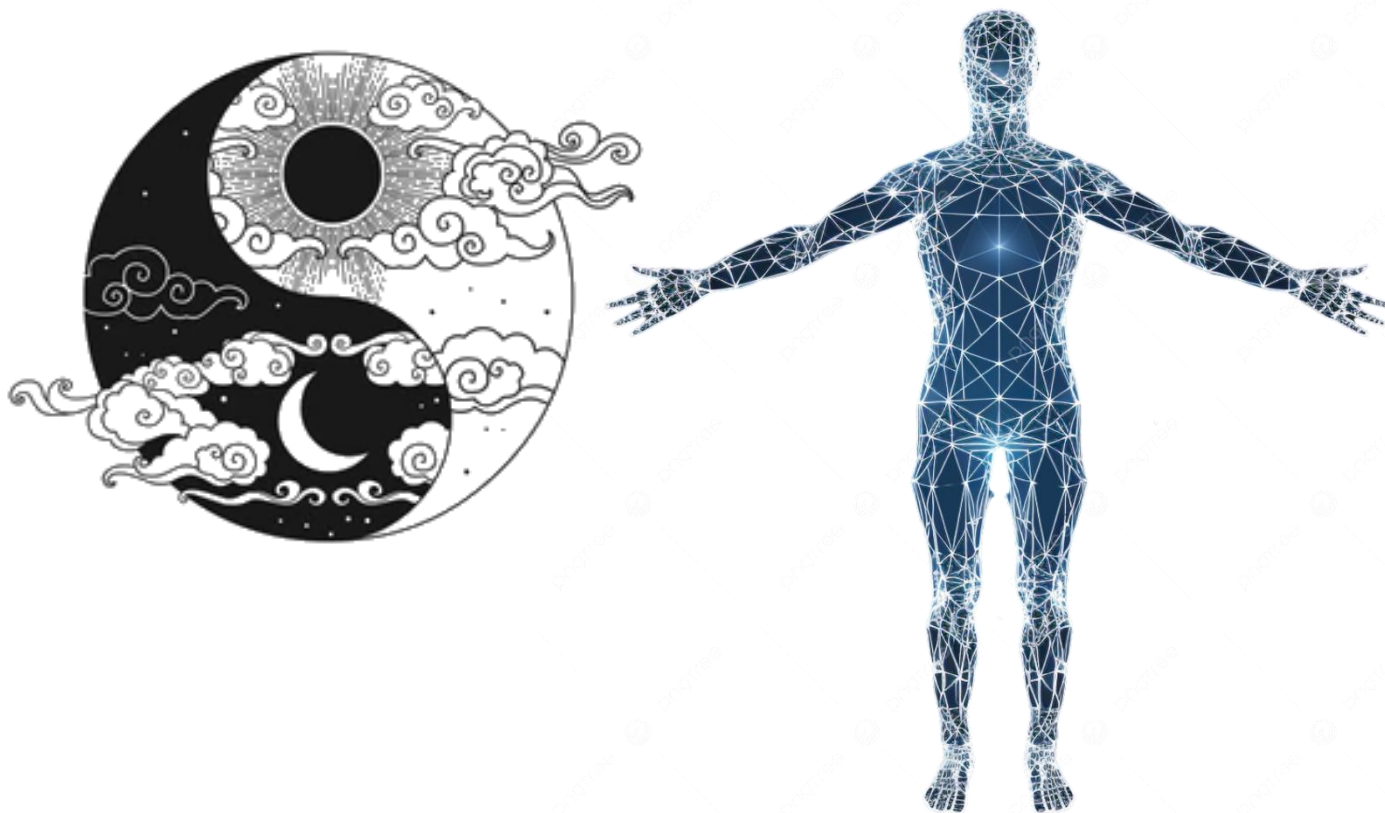
等の表現がありますよね。

物質的な意味での「空気」。
エネルギー的な目に見えない「空気」。



この両方の意味で使われています。

「見えるもの ⇄ 見えないもの」



日本人は古来より、
日常の中で感覚的に活用してきたことが
分かるのではないのでしょうか。

近年は、人が発する
「言葉」や「感情」「雰囲気」から、



「周波数」(波動)が出ていることが
科学的に明らかになっています。



人間関係や状態によって、
本当に「空気」(エネルギー)が
変わることが分かってきたのです。

先ほどの事例とも関係してきますが、
古代日本人の『叡智』には、
もう一つ、最大の特徴があります。

それは、選ばれた特権階級だけが読める、
「秘伝書」のようなカタチではなく…



日常生活で使う「日本語」の中に
ヒントが隠されているところ。

「日本語」さえ理解できれば、
国籍／人種／性別／年齢等を問わず、
いつでもどこでも引き出せるのです。



古代日本人の『叡智』の、
懐の深さと言ってもいいでしょう。

基礎講座では、



「日本語」を紐^{ひも}解^とくことで、

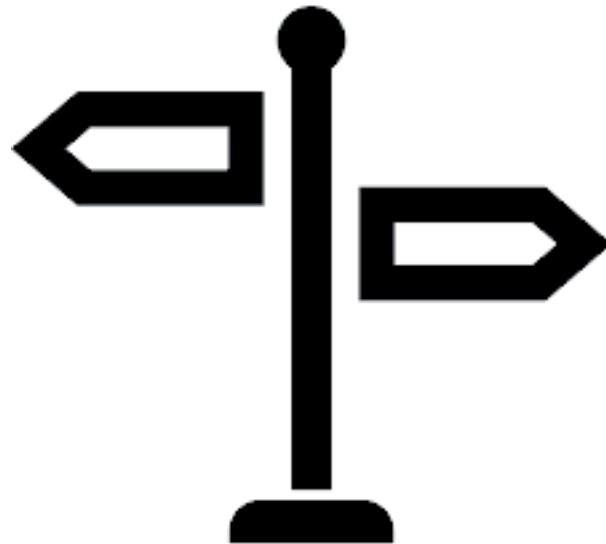
『叡智』を呼び覚まし、お伝えしていきます。

「見えるもの」だけでなく、
「見えないもの」を観る目も開く。



そうしていただければ、
『叡智』を受け取ることができます。

ご興味のある方は、
是非、読み進めてみてください。



次の章へ、続く。

もう一度
最初から見る

